

資料6

報道（TV放送、新聞記事）

【TV放送】

放送日	番組名	放送局
2004年11月29日	ニュースいしかわ610	NHK
	NEWS ON 6	北陸放送
	NEWS PLUS 1	テレビ金沢
	スーパーニュース	石川テレビ
2004年12月4日	NEWS ON 6	北陸放送

掲載紙：北陸中日新聞 朝刊

日付：2004年（平成16年）11月17日（水曜日）

掲載面：第14面（北陸経済）

北陸総合通信局 北陸総合通信局は視覚障害者向けに、公共トイレの利用方法を電子タグと携帯電話で音声案内するシステムの実証実験を金沢市広坂の同局で二十九日に行つた。外出時に安心してトイレを使いたいというニーズに応える。携帯電話にIDの読み取り装置を接続し、トイレのドアや壁に張ったタグの近くにかざすと洋式や和式などの情報が音声で案内されるという仕組み。当日は視覚障害者がモニターとなって使い勝手をチェックする。同局は民間企業と共同で調査研究会を八月に発足しシステムを構築してきた。来月も金沢市内の公園のトイレなど約二十カ所で実験し実用化への課題を検討、来年度中に報告書をまとめる。

公共トイレ利用法 電子タグと携帯で案内

つ。外出時に安心してトイレを使いたいというニ

掲載紙：北國新聞 朝刊

日付：2004年（平成16年）11月17日（水曜日）

掲載面：第3面（北陸経済）

トイレ音声案内、実用化へ

北陸総合通信局 携帯と電子タグで

北陸総合通信局は二十日に接続された機械で電
九日、電子タグと携帯電
話を使った視
覚障害者のた
めのトイレ案
内システムの
実証実験を行
う。
携帯電話ぐ。

に接続された機械で電
子タグを読み取ると、ト
イレの様式やトイレレ
ッ
トペーパーの場所などが
音声で伝えられる。金
沢市内の病院や公園な
どのトイレでモニター調
査を行い、実用化を急

掲載紙：北國新聞 朝刊

日付：2004年（平成16年）11月30日（火曜日）

掲載面：第3面（北陸経済）

トイレを音声で案内
北陸総合通信局は29
日、視覚障害者のための
トイレ音声案内システム
の実証実験を金沢広坂合
同庁舎で行なった。電子
タグを携帯電話を使って
読み取ると、トイレの向
きなどが音声で伝えられ
る仕組みで、視覚障害者
が実際に利用して、使い
勝手などを評価した。

掲載紙：建設工業新聞

日付：2004年（平成16年）11月30日（火曜日）

掲載面：第14面（北陸圏）

携帯電話でトイレを案内

視覚障害者対象に

システム実証実験

北陸通信局

同システムは、トイレのドア内側に張り付けた電子タグから携帯電話で情報を読み取ると、便器の様式・位置、ペーパーと水洗レバーの場所などが音声で案内される。実験では3人の視覚障害者がモニターとなり、装置の操作性や案内方法の的確性などを評価した。今後引き続き金沢市内の病院や公園、駅などの公共トイレを使用してモニター調査を実施。その結果をもとに、システムの有効性や実用化に向けた課題などを検討し、2005年度中に報告書を取りまとめる予定だ。

北陸総合通信局「電子タグと携帯電話を活用し

た視覚障害者のための公共トイレを使いやすくするシステム実証実験を金沢広坂合庁の6階トイレ内で行った。



盲導犬を連れて実験に参加した障害者（中央）ら

公共トイレ 視覚障害者誘導

ICタグ使い 携帯電話の音声で 金沢で実験

電子荷札「ICタグ」を使い、視覚障害者が公共トイレの位置や位置、紙や水洗レバーの位置を携帯電話の音声で聞き取った。

確認できるシステムの実証実験が、金沢市内で始まった。

同システムは、北陸総合通信局が民間メンバーを交えて

発足させた調査研究会（座長＝細野昭雄アイ・オー・データ機器社長）

が開発を進めている。年内に金沢21世紀

美術館や金沢市役所など計二

十一か所で実験を行い、実用

化に向けた課題を検討。二〇〇五年度に報告書をまとめる

予定している。

金沢広坂合同庁舎で行われた実験では、トイレの内側の扉に張り付けてあるICタグ

に、利用者が携帯電話に接続された読み取り装置を当て、

* 水洗レバーや 紙の位置

実際に機器の使い勝手を試した視覚障害者からは「公共トイレ内の各種装置の配置がわかるのは大変助かる」という声の一方、「物置き台の位置を知らせてほしい」「扉の外にタグを取り付けてほしい」などの要望も出された。

ICタグは、バーコードに代わる商品管理システムとして開発され、実用化されている。



ICタグを使ったシステムの実証実験をする研究会メンバー

掲載紙：YOMIURI ON LINE

日 付：2004年（平成16年12月1日）

掲載面：地域情報とニュース

公共トイレ 視覚障害者誘導

ICタグ使い携帯電話の音声で 金沢で実験

電子荷札「ICタグ」を使い、視覚障害者が公共トイレを利用する際、水洗レバーや紙の位置を携帯電話の音声で確認できるシステムの実証実験が、金沢市内で始まった。

同システムは、北陸総合通信局が民間メンバーを交えて発足させた調査研究会（座長＝細野昭雄アイ・オー・データ機器社長）が開発を進めている。年内に金沢21世紀美術館や金沢市役所など計二十一か所で実験を行い、実用化に向けた課題を検討。二〇〇五年度に報告書をまとめる予定でいる。



ICタグを使ったシステムの実証実験をする研究会メンバー

金沢広坂合同庁舎で行われた実験では、トイレの内側の扉に張り付けてあるICタグに、利用者が携帯電話に接続された読み取り装置を当て、インターネット配信される便器の様式や位置、紙や水洗レバーの位置などの音声情報を聞き取った。

実際に機器の使い勝手を試した視覚障害者からは「公共トイレ内の各種装置の配置がわかるのは大変助かる」という声の一方、「物置き台の位置を知らせてほしい」「扉の外にタグを取り付けてほしい」などの要望も出された。また、アイマスクをして試した研究会メンバーからは「タグ自体に情報を盛り込めないのか」などの意見も出されていた。

ICタグは、バーコードに代わる商品管理システムとして開発され、実用化されている。

掲載紙：北國新聞 朝刊

日付：2005年（平成17年）3月10日（木曜日）

掲載面：第3面（北陸経済）

電子タグと携帯電話を活用した公共トイレ音声案内システムを検討する調査研究会は九日、金沢市のKKRホテル金沢で会合を開き、報告書案を承認した。

北陸通信局の研究会を承認した。

検討してきたのは、視覚障害者が携帯電話を利用してトイレに設置された電子タグを読み取り、音声でトイレの使い方を案内するシステム。

電子タグと携帯で トイレ案内

報告書は、実用化の運営主体はNPO法人などが「最適な形の一つ」とした。まず、各地の障害者支援団体などが小規模な範囲で普及させ、徐々実用化へ報告書

々に大きくする取り組みが考えられると指摘した。細野昭雄座長から報告書を受け取った鈴木薫北陸総合通信局長は「今後、このシステムの実用化に取り組みたい」と語った。

掲載紙：建設工業新聞

日付：2004年（平成17年）3月10日（木曜日）

掲載面：第16面（北陸圏）

実用化への報告書を提出

視覚障がい者向け
トイレ音声案内システム

調査研究会

北陸総合通信局の「電子タグと携帯電話を活用した視覚障がい者のための公共トイレ音声案内システムに関する調査研究」を、座長／細野昭雄アソシエイト・データ機器社（長）は9日、最終報告書を金沢市のKKRホテル金沢で開いた。この中で、同研究会は、視覚障がい者が外出時に安心して公共トイレを使用できるようにと、音声によって情報提供を行うシステムの実用化を目指し、技術的課題などの研究に取り組んできた。

実証実験の結果、このシステムは、電子タグによって自動的にトイレを

認識し、携帯電話を通じて適切な音声ガイダンスを提供できるため、視覚障がい者のサポートシステムとして極めて有効であることが確認された。

掲載紙：読売新聞 朝刊

日付：2004年（平成17年）3月11日（金曜日）

掲載面：第31面（いしかわ経済）

ICタグ「安価なら需要ある」

ICタグ
視覚障害者
実証実験 調査研究会が報告書

電子荷札（ICタグ）を利用し、公共トイレの水洗レバーや紙の位置を視覚障害者に音声で知らせるシステムの実証実験を実施してきた調査研究会（座長＝細野昭雄・アイ・オー・データ機器社長）は報告書をまとめ、北陸総合通信局の鈴木薫局長に提出した。報告書によると、実験の結果、視覚障害者のモニター全員が、端末価格が安価であること条件つきで利用を希望し、「システムの需要はある」と結論づけた。実用化に向けては、どんな機関がシステムの運営主体になるかなどが課題としている。

同研究会は昨年8月、システムの実用化を目指す局が、障害者団体や福祉機器会社、携帯電話会社の担当者も加えて発足。システムの有効性の確認や技術的課題の検討などを行ってきた。